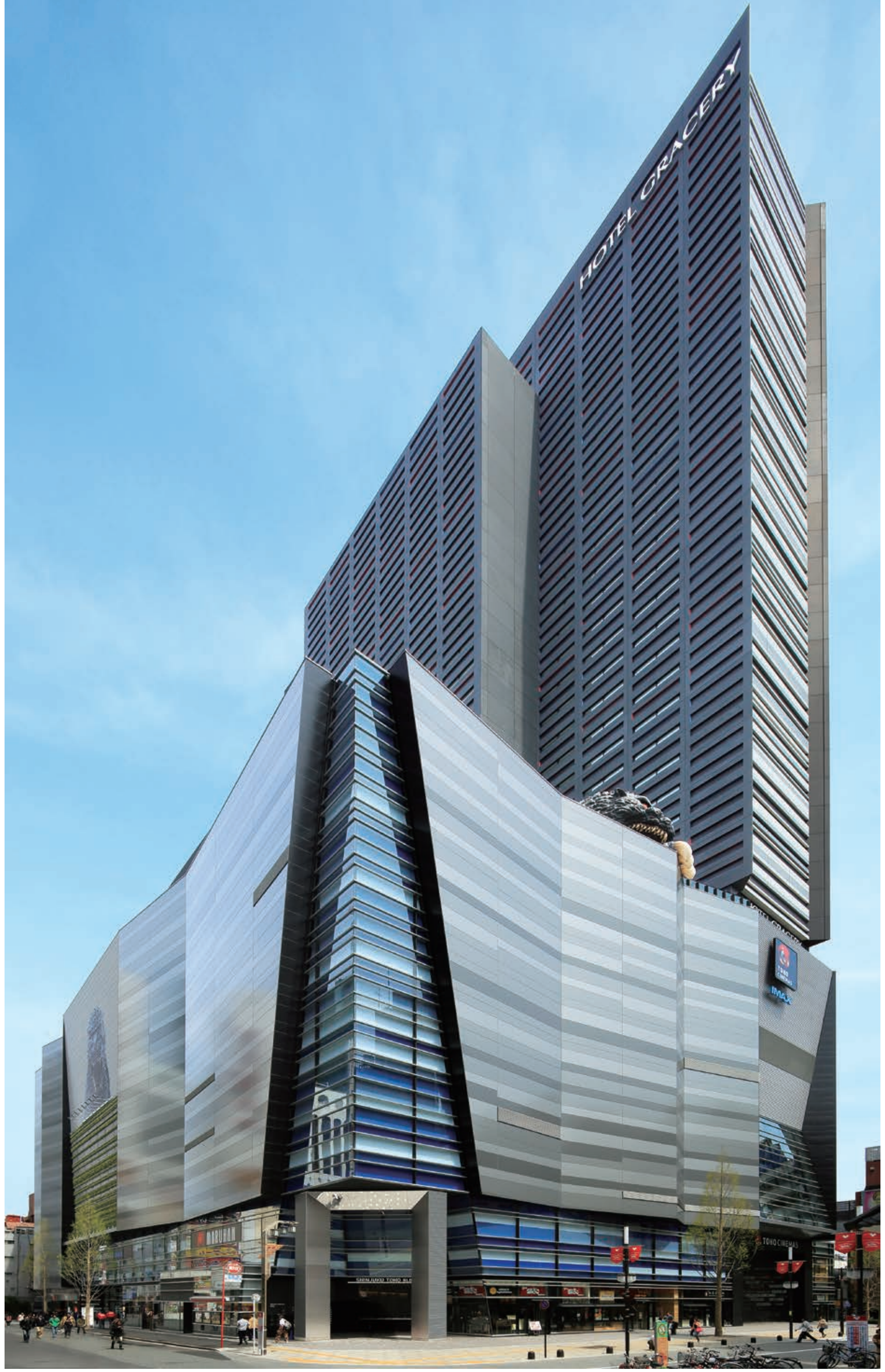
BCS賞

2017年 第58回
BCS賞受賞作品紹介

新宿東宝ビル



全景。都市機能が積層された「立体的なまち」（撮影：ミヤガワ）TM&cTOHO CO., LTD.

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館（このはなアリーナ） 新宿東宝ビル
太子町新庁舎「太子の環」人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる　竹中大工道具館新館　敦賀駅交流施設「オルパーク」・駅前広場キャノピー　TSURUMIこどもホスピス
東京駅八重洲口開発：グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場　TOTOミュージアム　桐朋学園大学調布キャンパス1号館
としまエコミューゼタウン　TOYAMAキラリ　虎ノ門ヒルズ（環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区）直島ホール　MIZKAN MUSEUM　YKK80ビル
［特別賞］日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生　早稲田大学 早稲田キャンパス3号館

上／歌舞伎町の集客エンジンとなるシネコン
右下／独特な景観のホテルロビー
左下／パノラマビューを提供する客室

作品の紹介

新宿歌舞伎町の中心部、五二年間の機能を果たした新宿コマ劇場があった土地の再開発である。戦災の復興時に、鈴木喜兵衛を中心とした歌舞伎座の誘致運動など、幅広い層を対象にした健全な娯楽の中心地として計画された街も、その後訪れる人びとの解放を求めるエネルギーの沈殿とともに、品行定かでない方向に発展し、街としての治安も問題視されるようになってきた。石川栄耀が立てたこの街の街路計画の迷宮祝祭性（T字街路＋広場）もそのことに想定外の寄与をしたのかもしれない。

新宿駅方向から続く目抜き通りの突き当り正面に、アイストップとなるスレンダーなタワー妻面を配置する。一三〇メートルタワーの高層階のホテルの窓のない妻面を利用し、リブ状SF（ステンレスファイバー）RCによるシームレスでソリッドな外壁全体を使ったディスプレー表現を可能とする。アプローチとなる目抜き通りも従来のケヤキ並木をあえて伐採整備し、人びとの流れと人工光を通りの主役として解放した。高層建築の構造手法を尽くして実現されたアスペクト比六・八の異様にスレンダーなタワーの片隅に、基壇部の屋上からゴジラヘッドが堂々と顔を覗かせる。

ホテルの窓が連なる高層階の長手面では、客室窓を横長スリットの形状とすることで、夜は不規則な細長い光が大きな黒々としたソリッドの影の中から発光する不思議な表情をこの建築に提供する。このスリット光は宿泊者の営みにより日々刻々と変化することになる。設計者はこれを「モノリス」と唱えている。

低層部はシネコンと飲食物販施設だが、ここでの通路構成はこの街の「T字街路＋広場」の迷宮性を踏襲している。上階のシネコンに至るエントランスも街区構造と同様に敢えて目抜き通りの軸線をはずして配置し、来客を迎え入れ

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

高層棟長手面の横長客室窓

る。シネコンに至る途中のロビーは、パノラマウインドウ越しに目抜き通りを新宿駅方向に見返す展望スペースとなっている。ここからなにすることもなく目抜き通りをぼんやりと見下ろしているカップルの姿が絵になる情景である。

新宿歌舞伎町がどこにでもある「健全な街」になってよいのかという点では議論の余地は残るが、過度な逆振れを回避し曖昧性を残すのが、「T字街路＋広場」の迷宮性を建築として踏襲することだったのかも知れない。本整備後に周囲の通りの歩行者数は以前の二・三倍に増加したという。

新宿東宝ビル東側にはシネシティ広場が次の再構築を待つがごとくぽつんと残されている。この広場周辺を含めて今後も街の再整備は継続されると聞く。上層部に配置されたホテルの宿泊利用者は、その大部分が外国からの来訪者だそうだが、それも新宿の街が国際迷宮都市として発展していく今後の方向性を象徴的に示しているのかもしれない。

右は『第五八回BCS賞作品集』選評をもとに事務局でまとめました。

「T字街路」に呼応するシネコン入口

目抜き通りを臨むシネコンロビー

建築主より

エンターテイメント文化の拠点として街を活性化する

東宝株式会社
不動産経営部
次長
太田圭昭
Yoshiaki Ohta

1956年に新宿コマ劇場を開場して以来、弊社はこの地に根を下ろして大衆娯楽文化を発信してまいりました。2008年末のコマ劇場閉館と相前後して、この日本最大の歓楽街を誰もが安全安心に楽しめる街へ再生しようと、官民一体となった「歌舞伎町ルネッサンス」の取組みが進んでいます。弊社もその趣旨に賛同し、娯楽施設の復活を望む地元の皆様のご期待に応えるべく、大規模ホテルと都内最大級のシネマコンプレックスを核とした施設への再開発を行いました。当ビルの竣工に併せて、行政や地元の皆様のご尽力により新装整備された「セントラルロード（ゴジラロード）」や「シネシティ広場」では、2015年以降たくさんの集客イベントが行われています。今後も永きに渡り、エンターテイメント文化の拠点として、国内外へ向けて様々な情報を発信し、街の活性化へ貢献していく所存です。

設計者より

歌舞伎町再生の“きっかけ”を創出する再開発計画をめざして

株式会社 竹中工務店
東京本店設計部
副部長（設計担当）
関谷和則
Kazunori Sekiya

歓楽街歌舞伎町の顔であった新宿コマ劇場の再開発計画の企画設計から竣工開業に至る一連の設計を担当させていただきました。歌舞伎町の歴史を紐解くと、行政と地元有志が密に連携し、戦後の焼け野原に“家族で楽しめる健全な娯楽のまち”づくりを目標に歌舞伎演舞場誘致運動から町名がつき、T字型街路と広場で構成される特異な人工的街区ができた経緯を知りました。「先人の想いを引き継ぎ、持続的に賑わいを継続することができる建物を創らねば」をモットーに、建築主・行政・地元商店街振興組合の皆さん、施工に携わった多くの方々との協業を一つひとつ積み上げてきました。その結果、町の負のイメージが軽減され沢山の人々が訪れる町になったこと、嬉しく思っております。

栄誉ある本賞を受賞した新宿東宝ビルを基点に、唯一無二の町が発展していくことを祈念しております。

施工者より

生産への熱き想いを未来につなぐ

株式会社 竹中工務店
東関東支店 次長（生産担当）
（当時・作業所長）
浜島英一
Eiichi Hamajima

五十余年の歴史にピリオドを打つ新宿コマ劇場最終公演の緞帳が下りた2008年大晦日より現場をお預かりして以来、新宿東宝ビルは準備・解体工事を経て新築工期33カ月、7年越しに竣工へと至りました。振り返れば東洋一と比喩される超過密繁華街で厳重規制や敷地目一杯の立地条件、更に同時併行の街区・インフラ工事との調整などこの上なき施工条件に怯まず、安全を最優先して全うした工期中は毎日気を緩めることのできない緊張の連続でした。生産への熱き想いを込め、すべての力を結集して築き上げたものづくり、ことづくりのつくり手一同、栄誉ある本賞受賞に際し一入の悦びに浸るとともに心より皆様への感謝の意を表し、厚く御礼申し上げます。

今後もお客様オペレーションのもと、この作品をしっかりとお守りし続け、未来に向かって強い想いをつなげてまいりたいと思います。

計画概要

建築主：東宝㈱
設計者：㈱竹中工務店
施工者：㈱竹中工務店
所在地：東京都新宿区歌舞伎町1-19-1
竣工日：2015年3月25日
敷地面積：5,590㎡
建築面積：4,214㎡
延床面積：54,735㎡
階数：地上30階、地下1階、塔屋2階
構造：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造